聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 広報誌

Vol.06
February 2022

西部病院だより

いこいの森

腎臓・高血圧内科

腎臓・高血圧内科スタッフ

放射線科

放射線科スタッフ

2021年、聖マリアンナ医科大学は創立50周年を迎えました。

FEATURE　放射線科のご紹介

当院放射線科の特徴

医科大学附属病院ですので、当科には6名の放射線科常勤医師が所属し、5名が診断専門医です。さらに、放射線科専門医修練機関・IVR学会専門医修練施設・核医学会専門医教育病院の認定を受けています。マンパワーや質といった機能は放射線科としてはそれなりに充実しているものと考えています。

放射線科 部長
山田　隆之

放射線科とは

アメリカではタクシーの運転手に放射線科医だと言ってもすぐに理解されますが、日本では良く理解していない人も多いと思います。放射線科診断医はCT・MRI・核医学などの画像検査に対する所見や診断を報告書として記載しています。最近では、各診療科の専門外領域の異常所見を発見した際、それを連絡したり報告書が読まれたかを確認しており、読まれていない場合には注意を喚起するなど、後でがんが大きくなって見つかりましたということが無いよう放射線科医師の業務は医療安全の観点からも重要となってきています。

さらに、当科ではインターベンションといってカテーテルといった細い管を利用した治療を患者さまに行なうこともしています。例えば、肝細胞癌に対する化学動脈塞栓療法、抗がん剤治療の際の中心静脈ポート留置術、術後の膿瘍ドレナージ術などです。核医学（ラジオアイソトープ）を使用した治療も行っています。

CT検査

MRI検査

他医療施設からの画像検査

近隣の医療施設に対してCT、MRI、核医学検査のサービスを行なっています。このようなサービスを行なっている医療機関は比較的多いと思いますが、当院では核医学検査を行っている点が特徴です。

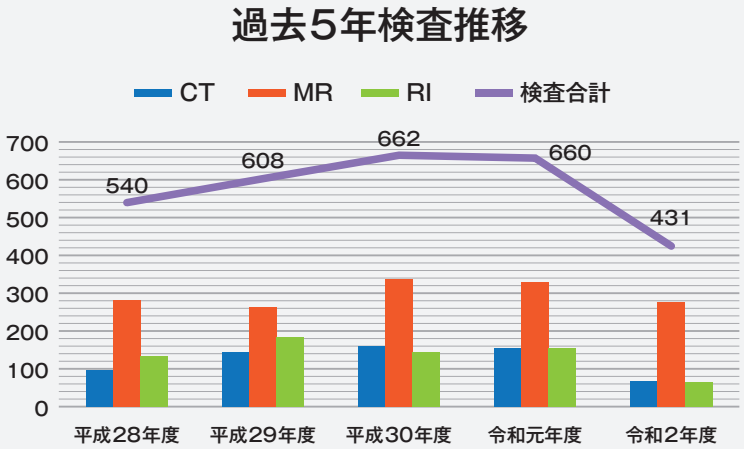
現在、認知症診療に脳血流シンチやDATスキャン、心筋MIBGシンチを施行する機会も多いですが、当科では医療施設からの依頼でそれらの検査に従来から対応しています。もちろん、骨シンチなど他の核医学検査にも対応は可能です。

CTやMRIも更新してから、それほど日が経っておらず、性能も良いと考えています。これらの画像を常勤放射線診断専門医による読影報告書とともに提供している点が当院の強みと考えております。

他医療施設からの画像検査依頼・実績

2012年度より2019年度までは、依頼件数は毎年増加してきました。しかし、2020年4月下旬の新型コロナウイルスの院内感染時に一時期他医療施設からの画像検査の受け入れを自粛していたこともあり、かなり減ってしまいました。今年度は昨年度もより増えておりますが、ピークであった2019年度と比較するとまだ少ない状態です。当科としてはまだお受けする余裕がありますので、医療機関の皆様におかれましては、かつてのように有効利用していただければと思います。

核医学検査



2つの国民病をみる腎臓・高血圧内科

部長　今井 直彦

腎臓・高血圧内科は、急性腎障害、慢性腎臓病、水電解質・酸塩基平衡異常、そして高血圧と幅広い疾患を診療の対象としています。なかでも国民病である高血圧と慢性腎臓病の患者さまは全国にそれぞれ、4300万人と1300万人います。腎臓・高血圧内科の外来で診る患者さまの疾患として特に頻度が高いものとなっています。

急性腎障害や慢性腎臓病に対しては、必要に応じて腎生検を行い、的確な診断と治療を行っています。また、慢性腎臓病の患者さまに対しては慢性腎臓病教育入院を行っています。慢性腎臓病教育入院には、慢性腎臓病を知り、減塩食を体験し、そして慢性腎臓病の進行を少しでも遅くするという重要な役割があります。残念ながら腎機能障害が進行し、末期腎不全となった患者さまには、腎代替療法選択外来を行っています。腎代替療法選択外来では、患者さまと相談し血液透析・腹膜透析・腎臓移植の3つの中から、個々の患者さまに最適な腎代替療法を選択して頂いています。それぞれの特徴をきちんと理解して頂くことが重要と考えています。

血液透析患者さまを対象としたバスキュラ―アクセス外来では、バスキュラーアクセスの定期的な診察やシャントの経皮的血管拡張術を行っています。腹膜透析患者さまを対象とした腹膜透析外来では、腹膜透析患者さまの定期的な診察を行っています。その他、頻度が少ない特殊なものとしましては、薬物中毒や自己免疫性疾患などに対して、他科と連携して血液浄化療法を施行しています。

地域連携や腎臓病教室にも力を入れております。地域連携としまして、慢性腎臓病連携パスを用い、近隣の先生方と連携をとりながら、慢性腎臓病患者さんを診ています。また、地域の病院や開業医の先生方、地域の透析クリニックの先生方と一緒にセミナーを開催しています。コロナの影響もあり、しばらく開催できていなかった腎臓病教室も今後状況をみながら開催していきたいと思っています。

微力ではございますが、腎臓・高血圧内科のスタッフ・コメディカル、一丸となって地域の患者さまと先生方のために尽くして参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

こんな人は要注意です！

高齢者

高血圧や糖尿病、肥満などの生活習慣病やメタボリックシンドロームがある

過去に心臓病や腎臓病になったことがある

家族に腎臓病の人がいる

検診などでタンパク尿が見つかったことがある

たばこを吸っている

TOPIC
栄養部

1日に必要な野菜の量を知っていますか？

野菜は食物繊維やビタミン、ミネラルを多く含み、生活習慣病を予防する栄養素がたくさん含まれています。厚生労働省では野菜摂取の目標を「1日350g以上、そのうち緑黄色野菜を120g以上」としています。

みなさんは野菜をどのくらい食べていますか？　令和1年の国民健康栄養調査によると野菜の平均摂取量は約280gです。毎食野菜を食べ、1日350g以上を目指しましょう。

緑黄色野菜

ほうれん草、にんじん、ブロッコリー、ピーマン、かぼちゃ、小松菜、アスパラ、トマト、オクラ 等

淡色野菜

キャベツ、レタス、ごぼう、れんこん、玉ねぎ、大根、もやし、きゅうり、なす、かぶ 等

ほうれん草
30g/株

にんじん
200g/本

トマト
200g/個

ブロッコリー
60g/3房

玉ねぎ
200g/個

もやし
200g/袋

きゅうり
100g/本

なす
100g/個

旬の野菜を食べましょう

旬の野菜はおいしく、栄養価も高いです。旬の野菜を知り、取り入れてみましょう。

冬野菜

にんじん、かぶ、だいこん、白菜、ブロッコリー、ほうれん草、みずな、れんこん 等

冬野菜は体を温めてくれる野菜が多いです。
また、風邪の予防に効果的なビタミンCを
多く含みます。

野菜の主な栄養成分

・ビタミン：ビタミンCやビタミンD、ビタミンK、βカロテン（体内でビタミンAに変わる） 等
・ミネラル：カルシウムやカリウム、鉄、亜鉛　等
・食物繊維：不溶性食物繊維と水溶性食物繊維

ビタミンCは水に溶けだす性質があります。電子レンジ料理や蒸し料理、スープや鍋物にして汁も摂ると無駄なく栄養分が摂取できます。（塩分制限がある方は汁の飲み過ぎは注意が必要です。）

また、食物繊維は糖の吸収を防ぎ、血糖値の上昇をゆるやかにする働きがあります。

どれも身体にとって大切な栄養素です。一度に摂っても吸収できないものは排出されるので、毎食意識して野菜を摂りましょう。

Information

新型コロナウイルスの感染ルートとして飛沫感染が大きな割合を示していることがわかり、「飛沫の吸い込みを予防する」という部分でマスクはとても効果的です。マスクの種類により飛沫を吸い込む量に大きな違いがあり、バラエティーに富んだ色や種類のあるウレタンマスクは吸い込む飛沫量が60～70%、国民一人一人に無料配布されたこともある布マスクは55%～65%とされています。

それに対して不織布マスクは30%と飛沫の吸い込み予防には一番適していることが明らかとなっています。そこで当院では、職員、患者さま全員で飛沫を飛ばさない、吸い込まないためにも不織布マスクの着用をお願いしております。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
St. Marianna University Yokohama Seibu Hospital

地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院
JCEP（卒後臨床研修評価機構）認定病院

〒241-0811 神奈川県横浜市旭区矢指町1197-1
電 話　045-366-1111（代表）
FAX　045-366-1172
URL　https://seibu.marianna-u.ac.jp/